



## 授業研究会

11月から昨日にかけて、東小学校は「秋の授業研究会シーズン」でした。以前にもお伝えしましたが、教員の資質向上のために、授業研究を欠かすことはできません。そのため、仲間同士で授業を見合い、自分の実践に生かしたり、助言したりしながら学んでいます。日常的な「オープン授業」や外部から指導者をお呼びし全職員で学び合う「全校研究授業」がそれに当たります。

今秋は、2年2組の国語の授業を皮切りに、5年2組の体育、昨日は3年1組の国語の授業を全校研究授業として公開しました。



その内2回は、東信教育事務所学びの共創課より甘利主任指導主事、金子指導主事をお招きし、ご指導をいただきました。写真は昨日の研究会の様子。甘利主任指導主事の話に耳を傾ける本校の職員です。

今年度の研究テーマは「友とともに自分の学びを創る子ども」。自分の学びを創るとは自分の学びを自分で律し主体的に学ぶ子どもを指します。その姿を目指し、探究の学びを軸に据えて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていく…と言葉にすると難解な内容のようにも聞こえます。しかし、実践を通して見えてきたことは、「子どもたちが問題意識と解決の見通しをもって、友だちと意見交換しながら、自分にとってふさわしい学び方を選び、納得する答えを目指して学んでいく。その姿を教師が支える」という、これまで長野県で大切にしてきた授業のスタイルと大きくは変わらないということでした。

この先は、授業研究で得た示唆をそれぞれの授業に落とし込むことにトライします。これがまた難しいのですが、だからこそ挑戦していく。そうやって少しずつ、でも着実に授業をよくしていこうと、学び合う時間となりました。